

[成果情報名]アスパラガス半促成長期どり栽培における斑点性病害の県内分布と発消長

[要約]アスパラガス半促成長期どり栽培における斑点性病害の褐斑病と斑点病は、全県的に分布する。褐斑病は立茎開始1ヶ月後頃から発生し始め、夏場の高温時も病勢が進展する。

[キーワード]アスパラガス、褐斑病、斑点病、発生分布、発消長

[担当]総合農林試験場・環境部・病害虫科

[代表連絡先]電話0957-26-3330、電子メールuchikawa@pref.nagasaki.lg.jp

[区分]野菜（生産環境）

[分類]指導

[背景・ねらい]

近年、本県におけるアスパラガスは、栽培方法の半促成長期どり栽培への移行により、生産量が大幅に伸び、全国上位にある。しかし、栽培環境の変化により褐斑病や斑点病など斑点性病害の発生が顕在化し、安定生産を阻害して問題となっているが、両病害の本栽培下における発生生態は明らかでない。

そこで、これら斑点性病害の本県における発生分布や発消長を明らかにし、効率的で総合的な防除技術の確立に資する。

[成果の内容・特徴]

1. アスパラガス半促成長期どり栽培において、褐斑病と斑点病は全県的に分布する（図1）。
2. 褐斑病は、立茎開始1ヶ月後頃から発生し始め、夏場の高温時にも病勢が進展する。また、同一圃場内で両病害が併発した場合、斑点病の発生は緩慢である（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 最近、アザミウマ類のビニルハウス内への侵入抑制のため、近紫外線除去フィルム被覆の導入が進んでいるが、本フィルム被覆下では、斑点病菌の孢子形成が抑制される（稲田ら、2005）ため、褐斑病が斑点病に比べ発生しやすいので留意する。
2. これらの病害は発生様相が異なり、防除策にも相違を生じることから、各々の確に診断することが重要であるが、両病害の側枝における病斑は酷似している。褐斑病は病斑部に黒色の子のう殻を形成し（図3）、肉眼で確認できる。また、擬葉の病斑上にブラシ状の分生子（孢子）を形成する（図4）。
3. 斑点病の発消長等については、今後さらに調査し明らかにする必要がある。

[具体的データ]

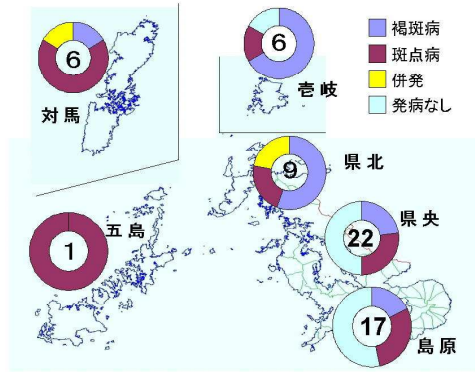


図1 県内における斑点性病害の発生分布
(調査：2003年5～12月、61圃場)

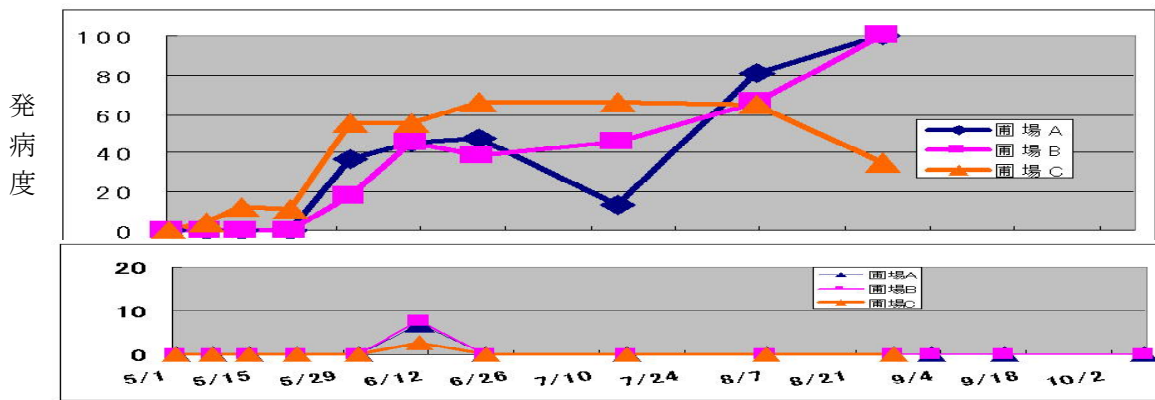


図2 アスパラガス斑点性病害の同一圃場内における発生推移 (上段：褐斑病、下段：斑点病)
調査期間：2004年5月7日～10月7日
圃場：圃場A, B (諫早市現地圃場、立茎：4/中～)、圃場C (長崎市現地圃場、立茎：4/下～)



図3 斑点性病害の側枝における病斑
(左：褐斑病、右：斑点病)

図4 擬葉に形成された灰白色ブラシ状のアスパラガス褐斑病菌分生子

[その他]

研究課題名：アスパラガス重要病害虫の効率的防除技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2003～2008年度

研究担当者：内川敬介、小川恭弘、松尾和敏